

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 気仙沼市立馬籠幼稚園 (※正式名称を記載)  
種 別 ☒ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0367

宮城県気仙沼市本吉町向畑14

E-mail magome-yo@kesennuma.miyagi.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 5 名 女子 4 名 合計 9 名  
幼児・児童・生徒の年齢 3 歳～ 5 歳

### 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

### 3. 活動内容

#### (1) 活動の概要

当園は、①明るく元気な子ども ②仲良く遊べる子ども ③思いやりのある子ども ④考えてみる子ども ⑤自然と親しむ子ども をめざす子ども像として掲げている。

平成29年度のESDにおいては『友達とのかかわりの中でお互いに影響し合いながら、遊びを深めたり自己を発揮したりできる幼児の育成』をねらいとし、友達とのかかわりが深まるような活動を通して、自信をもって自己を発揮したり認め合ったりする姿を目指し、活動内容や環境構成、援助の工夫を行った。

具体的には、自由遊び、栽培活動・食育、散策・地域交流を柱に、「一緒に遊ぼう！やってみよう！」「色々な野菜を育てよう！どんな匂い？どんな味？」「まごめ大好き！」をテーマに活動を行った。

#### ① 「一緒に遊ぼう！やってみよう！」（遊び・活動を楽しむ）

自由遊びの際の空間的な環境、物的な環境の見直しを行うことで、友達の姿や遊びに興味を向けやすくなり“友達とのかかわり合いの場面”が多く見られるようになった。一方で活動の中心となるはずの年中児（年長児が支援を必要とするため）が、遊びをリードすることを苦手になっているという新たな課題の発見にもつながった。

年中児の内の1名が進んで運動遊具に挑戦し友達を誘う姿に着目し、運動遊

びを全体で取り組む時間を設ける。運動遊びに自信が持てないでいた幼児も、他児が見ていない時に教師と一緒に取り組むことで、次第に進んで挑戦するようになった。できなかったことができるようになったという喜びが、更に様々な運動遊びへの興味や意欲につながり、得意な運動遊びを友達と見せ合ったり遊びをリードしたりと、自信をもって友達とかかわる姿が多く見られるようになった。

## ② 「色々な野菜を育ててみよう！どんな匂い？どんな味？」 (栽培活動・食育)

栽培畑で15種類の野菜を栽培する。野菜が苦手な幼児も、栽培活動を通して野菜の生長を感じられるようになると、愛着をもって世話をする姿が見られた。収穫した野菜は採れたてをその場で食べたり、カレーや豚汁等のクッキング、干し芋・切り干し大根に加工する等して試食をする。調理によって味が変わ化することに驚いたり、楽しかった経験を幼児が保護者へと伝えたりする姿が見られるようになり、「家庭でもクッキングをしてみました」という声が届くようになった。

## ③ 「まごめ大好き！」(散策・地域交流)

当園では行事に地域住民を積極的に招くことでつながりを深めてきた。そのつながりを活かし、今年度は田植え見学や、私道を借りたドングリ拾い、牛舎の見学等、散策時に新たな経験を重ねることができた。

地域住民や老人クラブを招いた園内行事では、散策時に旧馬籠小学校で収穫した柿を使用しての干し柿づくりへと展開した。また、幼児は北風にさらされることで柿が日毎に小さくなることや、生の柿とは違った歯ごたえやおいしさになることを知る等、食育活動へもつながっていった。



① 落ち葉で温泉作り  
(一緒に遊ぼう！やってみよう！)



② 野菜の苗植え (栽培活動)



③ 干し芋の試食 (食育)



④ そば打ち体験 (地域交流)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16.ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 日々の自由遊び, 栽培活動, 園内行事 等 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

幼稚園教育要領に関連付けると共に、体験型の活動や行事を中心とした異年齢児合同保育の中で、チームティーチングを意識した保育を行っている。
---

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

日々の保育の中で見られた幼児の姿や変容について、職員間で情報交換ができるように積極的に問いかけを行ったり、活動についての話題づくりを行ったりしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

保護者アンケートの実施と、評議員、民生委員訪問の際の口頭での意見集約を行っている。栽培活動と食育の推進により、家庭でも食べられるものが増えたり、調理に興味をもつようになったという成果と、少人数園であることから大勢の同年齢児とのかかわる際に戸惑ったり不安に感じる姿が多く見られることから、他園との交流の充実を図ってほしいとの意見があった。また、民生委員からは地区の小学校が廃校になったこともあり、地域老人クラブは幼稚園との交流活動の更なる充実を望んでいるとの意見があった。

交流活動の充実のためには交通手段と、交流のための時間の確保が課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

ESDだよりを発行し、家庭に活動内容や幼児の姿や成長を知らせている。食育で行ったクッキングや収穫物の持ち帰りを行うことで、家庭でも親子で調理を行ったり、苦手な野菜を食べられるようになったとの声があがった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

公民館と連携した家庭教育学級の実施。  
地域老人クラブとの行事交流。（やきいも大会参加協力、忘年会での遊戯披露、そば打ち体験 等）

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

幼児については友達と自信をもってかかわる力や、意欲的に挑戦しようとする力が身についてきている。  
様々な地域住民とのつながりができた。

### (3) 平成 30 年度の活動計画

#### ○自然を活かした体験

##### 【栽培活動と調理体験】

栽培物の生長を楽しみにしたり，食材や調理への関心を高め，友達と一緒に収穫した喜びを感じたりする。

- ・ J A 職員との畑の教室
- ・ 行事食，おやつ等のクッキング
- ・ 干し芋，干し野菜等のドライフード作り，試食 等

##### 【地域散策】

散策を通して地域への興味を深める。身近な動植物や自然事象について知り，友達と発見や驚きを共有し，調べたり遊びに活かしたりする。

- ・ 午王野沢探検
- ・ 田んぼ見学
- ・ 須賀神社へのお参り（七五三）
- ・ 消防署見学（秋の遠足『津谷の町探検』）等

#### ○人とのかかわりを深める体験

##### 【地域住民との交流活動】

地域住民との積極的な交流と，地域人材を活かした体験活動を通して，身近な人を大切にしたり，地域に親しみをもってかかわろうとする。

- ・ 夏まつり，運動会，生活発表会等への招待，  
やきいも大会への協力依頼
- ・ 地域老人クラブ忘年会参加
- ・ 太鼓指導の協力依頼
- ・ そば打ち体験

##### 【他施設との交流活動】

年齢の近い大勢の友達との交流活動や様々な年代の人との交流を通して，人との様々なかかわり方に気付いたり，相手の気持ちを考えてかかわろうとしたりする。

- ・ 3 園交流活動（津谷幼稚園，小泉幼稚園）
- ・ 本吉響高校生徒との植栽活動
- ・ 介護施設との交流活動（年 3 回）
- ・ 幼保小連携交流活動（主に年長児，年 10 回位）